

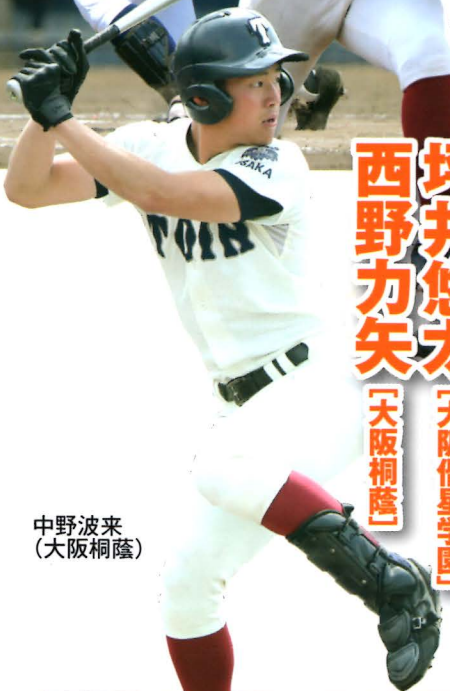
大阪大会 展望号



芝本弘平
(大体大浪商)



清水大成
(履正社)



中野波来
(大阪桐蔭)

令和元年のキーマン
清水大成 [履正社]
上田大河 [天商大高]
坪井悠太 [大阪借星学園]
西野力矢 [大阪桐蔭]

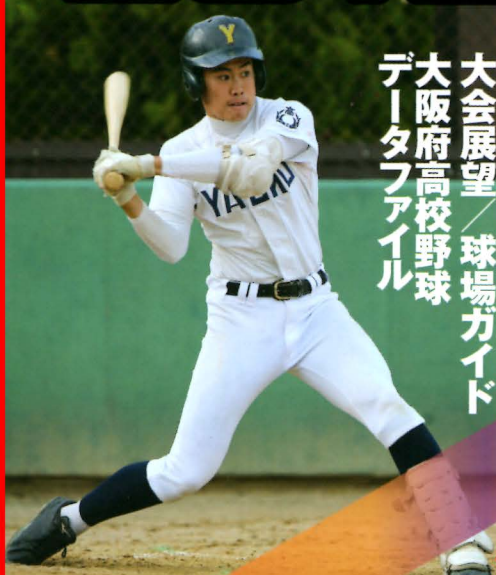
新時代は 戦国時代は？



三好辰弥
(大商大塚)

坪井悠太(大阪借星学園)

2019 SUMMER



大阪大会
組み合わせ
大会展望
球場ガイド
大阪府高校野球
データファイル

西浦謙太(八尾)

174

全選手メンバー表
& 詳細データ
戦力分析
出場チーム



石井康輝
(箕面学園)

過去5年間の夏の大阪大会最終結果

14夏 = 4回戦	2-3 履正社
15夏 = 3回戦	1-8 大体大浪商
16夏 = 1回戦	0-7 大商大高
17夏 = 2回戦	4-9 初芝立命館
18夏 = 準々決勝	3-10 上宮太子

昨秋新チーム結成以降の府大会成績

18秋 = 1回戦	13-0 西・南・扇町総合
2回戦	9-2 泉陽
3回戦	8-7 鳳
4回戦	6-2 岸和田産
5回戦	11-13 港
19春 = 1回戦	8-2 大阪電通大高
2回戦	12-8 門真なみはや
3回戦	3-2 興國
4回戦	6-3 東大阪大柏原
5回戦	0-4 大商大高

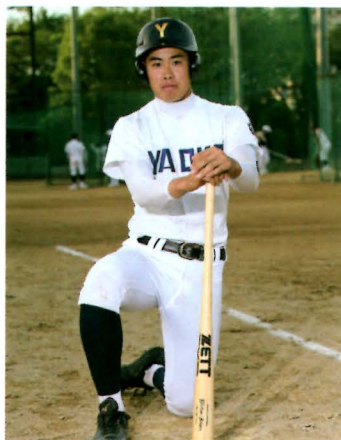
八尾

八尾市 府立 やお

●正式名称/大阪府立八尾高等学校 ●所在地/〒581-0073 八尾市高町1-74
 ●学校長/藤井光正 ●部長/大谷友哉 ●監督/長田貴史 ●部員数/51人
 ●学校創立/1895(明治28)年 ●野球部創部/1915(大正4)年



10ほぼ全員が練習後は塾へ直行
 試合34盗塁の足で「60年ぶり」頂点へ



↑上写真/主将で捕手、三番打者の西浦。抜群のキャプテンシーでチームを引っ張る。下写真/投手陣はツインズを武器とする右の藤澤(左)と、制球のいい左の永井という、2人のサイドスローが中心となる。



抜群のキャプテンシーでチームをけん引する司令塔の西浦主将が言う。「平日の練習時間は最大で2時間半。量で勝負できない分、しっかりと集中し、工夫する。それがチームの合言葉です」。学校に隣接するグラウンドは他部との共用で、平日の放課後に使用できるのは月、水、金曜日のみ。府内有数の進学校で、部員のほぼ全員が練習後、そのまま塾に直行する。就任7年目の長田監督は「平日は練習時間より塾にいる時間のほうが長い。勉強と野球の二刀流生活を部員全員がしっかりとやってくれている。そんな生活の中で育まれた集中力は彼らの強み」と話す。

自主性、考える力を高めるため、前チームからは選手主導で練習メニューを決定する方式に変更。長きにわたる4回戦の壁に阻まれてきたが、昨夏は南大阪大会ベスト8。現チームは2季連続16強入りを果たした。

昨年12月には今春のセンバツ大会

TEAM DATA

※学年の丸数字は主将

Pos.	選手名	学年	出身	身長	体重	投打
[投]	藤澤 丈	③	高井田	182	69	右右
[捕]	謙太郎	③	西浦南	177	76	右右
[一]	大道涼	③	石切	173	63	右右
[二]	瀧野 翔	③	大領	168	54	右右
[三]	藤井 和	③	高井田	167	64	右右
[遊]	藤井 吾	②	大宝寺	160	52	右右
[左]	和吉村	③	久宝寺	173	71	右右
[中]	田和照	③	中野	168	59	右右
[右]	柴山下	③	楠根	170	70	右右
[投]	永井 希	②	曙川南	170	70	左左
[投]	中田 岳	②	八尾東	175	60	左左
[投]	小森 洋	③	石切	167	65	右右
[内]	長嶺 慎	②	龍華	183	71	右右
[内]	藤井 俊	②	堅下南	168	55	右右
[内]	藤井 輔	③	盾津	170	75	左左
[内]	豊田 慎	③	曙川南	169	65	右右
[外]	上田 彰	②	玉川	170	64	右右
[外]	辻野 雅	②	柏田	168	67	右右
[内]	嶋崎 大	①	南高安	173	60	右右
[内]			盾津	169	60	右右

「21世紀枠」の各地区候補校9校に選出。最終選考では漏れたが、候補校に選出されたことで甲子園を強烈に意識しながら過ごした日々はチームの成長を大いに促進した。「仮に出場できても、秋の成績は下位。仮に出場できても、甲子園でコテンパンにやられてしまふ」という危機感が、冬場の苦しい練習を集中して乗り切る原動力になってくれた」(長田監督)

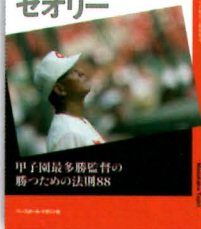
打撃陣は瀧野、西浦、長嶺、椎葉が中心。長打力不足を機動力でカバーすべく、昨秋、今春の公式戦では10試合で34盗塁を記録。ベンチからのサインではなく、選手個人の判断でスチールを敢行するのが八尾流だ。投手陣をけん引する右の藤澤、左の永井はともに技巧派の横手投げ。継投策を実施し、粘り強く守りながら、競り勝つスタイルが身上了。

春6回、夏4回の甲子園出場実績を誇る伝統野球部が最後に甲子園出場を果たしたのは1959年夏。今春21世紀枠による出場を果たせなかった悔しさを確かな力に変換し、60年ぶりの大阪の頂点を取りに行く。

(服部健太郎)

甲子園最多勝監督の勝つための法則 88

智弁和歌山・高嶋仁のセオリー



智弁和歌山・高嶋仁のセオリー

田尻賢 著
 四六判280頁/好評発売中!
 定価(本体1,500円+税)

甲子園に挑み続けて48年。どん底から頂点へ上り詰めた名将、高嶋仁(前・智弁和歌山監督、元・智弁学園監督)の勝てるチーム作りの秘訣と勝負哲学。

ベースボール・マガジン社 <http://www.sportsclick.jp/bookcart/>